

県社保協幹事会・第303回運営委員会開会

年金引き下げ問題から地域医療構想・コロナ問題まで幅広く情報共有

3月19日、県社保協幹事会・運営委員会が行われました。

地域医療構想の件で医労連からは、先月に行った自治体へのキャラバン行動の内容が話され、「今後議会への請願を行うにあたり、組合員から知り合いの議員を紹介してもらい、力を借りながら活動を広げていきたい」との発言がありました。

新型コロナウイルス感染症は、商業分野での影響も大変大きく、「リフォームの材料が入らない」「豆腐屋の売上げが3分の1になってしまった」「散髪屋に人が来ない」「タクシーの利用客数の減少」「本来なら春先に売上げの高い花屋に人が来ない」等の影響が挙げられました。病院にも影響が出ており、「病院へ行くとコロナが移る」といった悪いイメージを持った方もおり、一般病院も来院者が2割減っているとの話もありました。



★コロナ対策 受診抑制を防ぐために、市町村長に要請

感染拡大防止の為に受診抑制をなくすことが求められます。県社保協は、厚労省の通知に基づいて資格証明書の交付者に短期保険証を交付するように求める要請書を、各首長に文書で送ります。地域での後追いをお願いします。

★各団体間の意見交換～様々な問題にどう取り組むかの議論を行う

各団体の取り組みについて、情報共有と議論が行われました。橋本伊都社保協では、44名の賛助会員がおり、ニュースを発行して全員に知らせ、対話や懇談を行う事で、皆に意識付けを行っているとの事でした。また、後期高齢者の2割負担問題についても、署名活動を行っているとの事でした。

和歌山市社保協は、中学校給食の実施を求める運動、パンフレットを作成して学習に取り組もうとしているとの話がありました。また、行政との懇談や要望提出など積極的に行っているとの事でした。

一方で、後期高齢者医療、介護保険、国民健康保険の不服審査請求行動の取り組みは、年金者組合からほとんどであり、他の団体からの参加者が少ない事が指摘されました。全体の運動にどうすれば広げることができるのか、知恵と工夫が必要です。

最後に三谷代表幹事から、「コロナ問題の影響はとて大きく、収束する見込みもまだないが、皆で知恵を絞って乗り越えていきましょう」と挨拶されました。

◎社会保障学校 7月11日（土）に開催予定～各団体で学習会を

県社保協は7月11日（土）に社会保障学校を開催予定しています。「全世代型社会保障」の最終とりまとめが夏には行われる予定です。世代間の対立を乗り越え、自己責任と共助を押し出すアベ流の社会保障解体に対して、私たちの運動の構築が求められます。この社会保障学校を節目に、各団体でも学習を強めていただければ幸いです。

◎5.23 近畿総決起集会～6年ぶりの開催

社会保障推進協議会近畿ブロックと全国保険医団体連合会近畿ブロックは、分野の違いを超えて、国に対しての私たちの思いを発信する場をつくるために、5月23日に「この国 何とかせなアカン！ 5.23 近畿総決起集会とパレード(仮称)」を企画いたしました。6年ぶりの近畿集会です。和歌山県からもバスを仕立てて参加したいと思っております。